



氷見市教育研究所

〒935-0016 氷見市本町 4-9
(氷見市教育文化センター内)TEL 0766-74-8221 (代)
FAX 0766-74-5520
e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jp
ホームページ http://www.city.himi.toyama.jp/hp/
menu000000500/hpg000000416.htm

教育雑感

氷見市教育委員会

教育次長 池田 六義

市役所勤務も残すところ6か月になりましたが、教育行政にかかわったのは3年間です。教育委員会には、行政畑の職員と豊富な教職の経験を有し学校運営の指導に当たる立場の職員が配置されています。私は行政畑の職員であり、その立場から思いを述べさせていただきます。

初めて教育委員会に配属されたとき、毎日のように事務局を訪れる先生方への職員の対応の横柄さにいら立ちを覚えました。先生方は部屋に入るときから丁寧な態度で頭を下げ担当職員と打ち合わせをするのですが、職員の対応には部下にでも接しているかのような態度が目立ちました。これでは学校(教育現場)との信頼関係は生まれないと思いました。早速、職員に大先輩の言葉「人がお前に頭を下げしてくれるのは、お前が偉いわけではなくお前の職に頭を下げてくれるのだ。勘違いするな。」を借りて自覚を促しました。以前、市民への窓口をもつ職場を担当していたときのこと、行政処分にかかる市の措置に不服があると行政不服審査における異議の申し立てを受けたことがあります。最終的には取り下げという形で決着したのですが、そのとき相手方は「窓口での職員の傲慢な対応に非常に腹立たしさを覚えたのでこういうことになった。」と語ってくれました。人と接するときの難しさを痛感させられた出来事でした。力や立場で相手の意見を抑えても決して相手は納得しないものです。信頼関係があって初めて納得してもらえるのです。

私が保護者であったころの先生の印象は、一所懸命に子どもたちとかかわっている姿でした。たった一人の子の書き初めの作品が富山で展示されているというだけで休日と一緒に見に行ってくれるなど、とにかく熱意のある姿でした。私の子どもころは何か悪いことをしたと

き、「学校の先生に言う」と言われることが一番効果があったように思います。それは、学校の先生は人格高潔で絶対公正であり悪をなさないという社会通念に裏打ちされた信頼感が存在していたからだと思います。そんなことから、私の学校や先生方に対する印象は尊敬と敬意そして信頼の世界でした。この職に就いてから、学校が抱える様々な課題や事件に接します。時には、学校現場の生々しい声も聞きます。本市を舞台にした教員の不祥事も発覚しました。しかし、今でも基本的にその考えは変わりません。教育は国家の未来に最重要であると、教職員の人材確保のため大幅な給与改定(田中内閣当時)がなされたとき、教員聖職論が持ち上がり低給与でも我慢すべきだといった議論もありましたが、給与体系とは別に教員に期待する聖職願望はずっとあり続けると考えています。

戦後のベビーブームにおける全体的な教育水準向上のための教育からゆとり教育や少子化における個々の個性を重視した教育へと、教育における力点が時代とともに移り変わってきています。また、情報化時代にあって社会に様々な価値観が混在する現代、マニュアルのない教育現場での先生方の苦悩が察せられます。先生方はその教育活動に自分なりにどんな目標を設定しているのだろうか。行政事務においても常にその事務の目的を住民の何々のためと明確に意識して取り組むことが求められています。無責任な言い方になってしまいますが、単に知識を与えるだけなら学習塾で十分です。

先にも述べましたが先生と子どもたち、そして家庭との信頼関係が、子どもたちを育てる土壌として欠かせないのではないかと考えています。先生方への敬意と期待を込めて、私の思いを書き記してみました。

充実した教育セミナー

第2回 教育セミナー

7月31日（金）実施

演題 「積極的な学級経営 ー子どもを育て、問題を防ぐー」
講師 東京学芸大学 准教授 松尾 直博 先生



《 宮田小学校 養護教諭 南部 佳子 》

とてもすっきりした気分になった。私の子ども支援の考え方について、先生方から、どうやって気づくのかと聞かれることがあるが、どうしているのか自分自身も分からなかった。

でも、今日のお話を聞いて、予防医学の考え方を学校や子どもに応用していたのだと分かった。この考え方はとても分かりやすい。先生が示された“保護因子”は、私たちが経験として身に付けてきたものばかりだ。私たちが積み上げてきた“宝・資産”を大切に、子どもたちの才能が開くよう支援していきたい。

《 灘浦中学校 教諭 焼田 ちあき 》

「問題を防ぐ」という考え方を、予防医学を例にとり分かりやすく教えていただいた。本人にとっても集団や周りの人々にとっても、問題を未然に防ぐことができればよりよい環境の中で生活し、のびやかに成長していけると感じた。普段の学校生活の中で、“雰囲気・空気・姿勢・場”というような目に見えない部分を大切にしていくことが重要だと分かった。また、これをしてあげばすべて解決という方法があるわけではないので、できることを一つずつ実行に移していくことが大切だと思った。生徒がよりよい学校生活を送る基盤となる学級経営を積極的に進めていきたい。

第3回 教育セミナー

8月7日（金）実施

演題 「関係性が生み出す希望…つながり合ってハッピーに生きようぜ！」
講師 北陸学院大学 教授 金森 俊朗 先生

《 久目小学校 教諭 山崎 里美 》

「今の自分はどんな先生なのだろう」という気持ちになった。知らず知らずのうちに、子どもの姿・気持ちを見ようとしない、見えない教師になっているのではないかと不安になった。私が教師になったときの「なりたい教師の姿」と金森先生が重なった。初心を大切にしたいと思った。

《 窪小学校 教諭 菊池 朋世 》

力強いお話を聴き、これまでの自分の考え方を根本から見つめ直すことができた。子どもと話すときに、「私はどんな言葉をかけていたのだろう」と振り返ると、子どもの思いをうまく受け止めることができていなかったことに気づいた。先生のおっしゃる横並びの世界はとても素晴らしいことであるが、それをどのようにしてつくってあげばよいのかを考えたとき、自分の力量のなさを痛感した。自分はどうしても技術面を求めてしまうが、大切なことは私自身の心の耕しだと気づいた。



「海の森づくり青少年交流フォーラム」に参加して

(横浜「開国博Y150」)

氷見市立女良小学校

本校の5・6年児童20名は、横浜市開港150周年を記念し8月24日・25日に開港記念会館講堂で開催された「海の森づくり青少年交流フォーラム」に参加しました。このフォーラムは、富山・神奈川両県で海洋環境の保全活動等に取り組む青少年がそれぞれの活動を発表し合うなど交流を深めることで、豊かな海を守り育てる海の森づくりの取り組みを次世代につなげていくことを目的としています。



参加した学校は、富山県からは、氷見市立女良小学校と富山県立有機高等学校、神奈川県からは、横浜市立金沢小学校と神奈川県立海洋科学高等学校の4校です。

24日には、金沢八景島海の公園管理センターで相模湾にいる魚や貝、海藻など海の生き物の観察を行った後、4校と一緒に金沢海の公園（人工の海岸）の清掃活動を行ったり、海の公園オリジナルの「アマモ場いきいきかるた」を用いたゲームをしたりして交流を深めました。この活動を通して、子どもたちは海の生き物の大切さを知るとともに、氷見の海との違いを感じていました。

翌25日には、各学校で取り組んでいる活動の様子を紹介し合いました。女良小学校の発表の主な内容は、次のとおりです。

- ①女良小学校の学校紹介（学校の位置、富山湾越しの立山、学校での活動の様子など）
- ②ワカメ養殖体験（植え付け、ワカメの成長の様子、灰付け加工体験）について実物を交えた発表
- ③ワカメを使った調理例
- ④虻が島学習（清掃活動と生き物観察の様子を劇で再現）



各学校の活動紹介の後、国土技術政策総合研究所の古川室長の司会のもと、石井富山県知事、松沢神奈川県知事をはじめ各学校から1名、指導者など、計8名でディスカッションを行いました。女良小学校からは、児童代表として濱本久美子さん(5年)が参加し、松沢知事の「苦労したことや、今後力を入れていきたい活動は何ですか」という質問に対して、自分の経験をもとに活動への意欲を堂々と述べていました。

子どもたちは、都会の大きな会場で萎縮することなく元気よく発表したり、思いっきり演技したりしていました。女良小学校の発表を



覧になった石井知事をはじめ多くの方々から過分なお褒めの言葉をいただきました。この経験は子どもたちの大きな自信になるものと確信しております。このような機会を与えてくださいました富山県並びに氷見市に対し、心よりお礼申し上げます。

(濱本久美子さんの感想の一部)
…県知事さんの目を見て話すのはとても緊張しましたが。私が話をしていくと、会場のお客さんたちがたまに笑ってくださいるので、少し安心して楽になりました。意見を言い終わると、神奈川県知事さんが「少し緊張した?」と言ってくださいました。私は県知事さんはやさしいなと思いました。今年はとても素晴らしい体験ができたと思います。

科学作品展覧会

氷見市児童生徒科学作品展覧会を9月12日（土）、13日（日）の2日間、氷見市教育文化センターで開催し、約500人の市民の皆さんに見ていただきました。本年度は、小学校47点、中学校60点の出品があり、小学校4点、中学校1点の作品が、県科学展覧会へ出品されることになりました。

年々、出品数が減少してきていますが、子どもたちに自然の事象に対する見方・考え方を育て、科学的に判断したり処理したりする能力を培うよい機会だと思います。次年度には、たくさんの応募があることを期待しております。



（金賞受賞の皆さん）

小・中学校連携英語活動研修会

（8月12日 比美乃江小学校で実施）

講師 西部教育事務所 主任研究主事 伊豆 多都子 先生
研究主事 西守 千香子 先生

これまで、総合的な学習の時間を利用して英語に親しむ学習を行ってきましたが、平成23年度からの必修化に先駆け、氷見市では平成20年度から「外国語活動」を導入しています。小学校では、コミュニケーションの楽しさを体験させ、人とのコミュニケーションを通して自分の気持ちを伝えることにねらいがおかれますが、授業づくりはそう簡単ではないと考えられ、不安を抱える5・6年担任も少なくないと思われます。そのバックアップのためにALT（Assistant of Language Teacher：外国語指導助手）や外国語活動協力員を導入したり、「英語活動研究委員会」を設置し、中学校との連携を通して小学校英語活動における指導方法の紹介や標記研修会の内容を検討・実践したりして、英語活動の向上を図っています。（参加者 小中学校教員・ALT等28名）



《感想》

- ・英語ノートだけではイメージできないこともワークショップを行ったことで活動のアイデアや展開方法をつかむことができました。
- ・小学校の外国語活動と中学校の英語が本来はつながっているべきなのに情報交換の場が少ないので、今日はよい機会となった。
- ・楽しい外国語活動を進めるに当たっての様々なヒントを「Q & A形式」で紹介していただき、とても分かりやすかった。

ご案内

「適応指導教室紹介」

適応指導教室 教育相談訪問員 小林 悦郎

縁あって7月から適応指導教室に勤務しています。ここでは、主に教育相談と適応指導教室での活動を行っています。

「教育相談」では、子どもたちのよりよい成長を願って広く学習や生活の不安・悩みを取り除くための相談を行っています。子どもたちはもとより保護者・学校からの相談に応じ、一緒に考えながら問題解決の援助をさせていただきます。（教育相談専用電話 72-2620）

学校へ行けない子どもの心と体の居場所として「適応指導教室」を開設しています。現在、数名の子どもたちが在籍しています。一人一人の子どもの気持ちや個性を大切に、それぞれの興味・関心に応じた活動を行います。日常の学習活動やスポーツ活動はもちろん、野外学習・陶芸創作活動、高岡市や射水市との交流体験活動など多くの体験を通して、子どもたちの自立性を促し、社会性・協調性を身に付けるよう援助・指導に努めています。

子どもたちの心をとまほぐし、学校への橋渡しの役割を果たしていきたいと思っています。